

Global Summit of Women 2008

Hanoi, Vietnam June 5-7, 2008

報告：ジェントル奈々子

ビジネス、政治、NPOなど多岐にわたる分野から、世界各国の女性リーダーたちが集まる世界女性サミットは、「女性版ダボス会議」とも称され、女性のリーダーシップ会議として知られている。

1990年から毎年開催。18回目となる今年はベトナムのハノイで開かれ、71カ国から、35人の閣僚を含む900人の女性リーダーが集結した。

今年の開催国となったベトナムは、過去18年間で最も参加者の多い国。

オープニングスピーチ

「21世紀の世界経済の中心は“アジア”と“女性”」

- Summit President: Irene Natividad

世界の中心は、欧米からアジアへ、男性から女性へと移り変わって来ている—というNatividad氏のスピーチからサミットは始まりました。彼女はこのスピーチの中で、女性活用の成功事例としてルワンダを紹介しました。ルワンダは、80万人が犠牲になった14年前の大虐殺の惨事から、国を復興させた、その鍵となったのが「女性のエンパワーメント」であったといます。現在ルワンダの国会の女性比率は世界最高の48%（因みに米国は16%）。この数字に会場内から驚きの声。ルワンダ国内のビジネスの41%は女性による会社だそうです。女性の活用が、貧困のサイクルに病んでいた経済を根本的に変革させました。女性がお金を稼げるようになると、どう社会が変化するのか、これをNatividad氏は次のように述べました。女性がお金を持つと、男性と比べて家族に還元する割合が高い。ひいては栄養水準・教育水準が向上する。子どもたちの家族内の女性を見る目が変わり、母や姉を家族のリーダーとして尊敬するようになる

そういった家族が増えるにつれ、女性の活躍を支える社会の土壌ができ、それが次の世代まで続く。「このように女性は家族だけでなく、国や社会の成功の鍵を握っています。それはルワンダに限らず、米国やアジアにも当てはまります。誰かが変化を起こしてくれるのを待ってはいけません。ルワンダの女性たちは、自分から動き始めました。Change begins with you!」



様々な国の女性リーダーが集う

【プログラム】

6月5日(木) オープニングセレモニー

Welcoming Reception and Dinner at Hanoi Convention Center

6月6日(金) 朝食 (Networking Breakfast)

An Economic Profile of Asia Pacific Women:

Megatrends Affecting the World's Economics

Report from Ministerial Roundtable: Public/Private Sector Partnerships in Advancing Girl's and Women's Economic Progress

昼食 (Luncheon Networking)

Luncheon Program: Growing Enterprises in Asia: A Dialog with Women Entrepreneurs

- | | | |
|-----|---|--|
| 分科会 | } | Entrepreneurs Track: Failure and Second Chance |
| | | Microenterprise Track: Expanding Microenterprise Global Business Opportunities |
| | | Leadership Development Track: Building a Strategy Around Your Career |
| | | Issue Track: Engaging Young Women and Girls in Entrepreneurship |
| 分科会 | } | Entrepreneurs Track: Growing from Start-Ups: Innovative Financing |
| | | Leadership Development Track: Making Your Network Work Internally and Externally |
| | | Issue Track: Valuing Work and Women: Closing the Pay Gap |
| | | Special Session: YOUTH FORUM |

Global Women's Leadership Awards and Gala Dinner

6月7日(土) 朝食 (Continental Breakfast)

Corporate Social Responsibility: Best Practices

Women CEO Forum: Opportunities in the Asia-Pacific Region

昼食 (Luncheon Networking)

Luncheon Program: Consequences of Success: Impact of Women's Health

- | | | |
|-----|---|--|
| 分科会 | } | Entrepreneurs Track: Protecting Your Brand: IT and Beyond |
| | | Special Session: How IFC/World Bank Group Can Help You Grow Your Business |
| | | Leadership Development Track: Doing Business in Asia: Avoiding Cultural Chasms |
| | | Issues Track: Realities of Work/Life Blend; Case Histories |
| 分科会 | } | Entrepreneurs Track: Securing Corporate Contracts: A Corporate/SME Dialogue |
| | | Microenterprise Track: New Financing Models: Microinvesting |
| | | Leadership Development Track: How to Negotiate |
| | | Issues Track: Breaking the Cycle of Trafficking |

Closing Ceremony

Closing Reception

【スポンサー企業】



伝統芸能で幕を開けたオープニングセレモニー



ウェルカム・ディナーで歌&ダンスを鑑賞



ブースには手作りアクセサリーや衣服などが並ぶ



終了後に記念写真を撮りに集まる参加者

【ハイライト】

An Economic Profile of Asia Pacific Women: Release of MasterCard Worldwide Index of Women's Achievement 2008

By Georgette Tan (Singapore), Vice President, Communication,
Asia/Pacific, Middle East, Africa, MasterCard Worldwide

アジア太平洋地域の13の市場*を対象とした「女性の社会進出度調査」の結果が発表されました。この調査は今年で4回目。「雇用市場への参加」「学歴」という2つの客観的項目と「自分の役職が管理職であると思う」「自分の収入が平均より高いと感じる」という2つの主観的項目について男女を比較し、スコアが100以下の場合には男性優位、100以上は女性優位、100は男女平等を表すというものです。

* 13の市場：日本、オーストラリア、中国、香港、インドネシア、韓国、マレーシア、ニュージーランド、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ、ベトナム

この調査の結果、最高はフィリピンの86.82、二番目は香港で77.37、続いてマレーシアが76.89。日本は最低の49.83。日本の低さは、特に管理職の女性の「主観」指数の低さに起因し、これは、女性が現在のステータスに自信を持っていないことを表します。主観指標は13市場全体でも下落が見られ、総合指数は2007年の73.24から今年は70.38へ落ち込みました。

“Values” Profile of Asia Pacific Women

Xiaoyan Zhap (USA) Senior Vice President and Director,
Global Research & Consulting, Gfk Roper

世界の男女の価値観を問う調査の結果が発表されました。「自国の経済はこの先一年の間に成長する」と確信する女性の割合は、世界全体で57%、最も高かったのは中国（87%）、続いてインド（82%）、最も低かったのは日本（数字は出ませんでした）。

また、男女の労働時間・家事時間を比較したところ、女性の方が男性よりも家事時間が長いという傾向は全世界共通で、中でも先進国で差が顕著でした。男性の家事時間は、アジアの途上国で週7.9時間、アジアの先進国で週4.3時間。女性のストレス度が最も高い国はオーストラリア、日本、韓国、最も低い国はインドネシア、中国、インド、台湾。女性のストレス度の高い国は男女のストレスの差が大きい国でもあり、逆に低い国は男女のストレス差が小さい国でもあることが指摘されました。



Women CEO Forum（次ページ） 右から三人目が内永ゆか子氏

Growing From Start-Ups: Innovative Financing

Victoria Kisyombe (Tanzania), Founder, Sero Lease and Finace Ltd. 他

分科会の「Entrepreneurs Track」の中で、一人のタンザニア人女性の体験談が参加者の心を掴みました。ピクトリア・キスヨンベと名乗るこの女性は、謙虚な姿勢で淡々と自らの起業の経歴を語りました。夫を亡くした未亡人でありながら、幸い一頭の牛を相続できたお陰で、牛乳を売るなどして収入を得ることが出来たといいます。しかし周りには他の未亡人や貧しい女性の中には、ひとつの資産さえ持てない人が大勢いることから、起業を決意。リース業とビジネストレーニングを掛け合わせたサービスで、実に19,000人以上の女性に職を与えてきました。リースするものは、バス、トラクター、ミシン、製粉機、釣り船など多岐にわたります。「タンザニアは、方は平等だけれど社会的な男女差別が強い国。しかし、女性に資産がひとつでもあれば、そのひとつを使って運命を変えることが出来るのです。」と語り、信用が全くなかった状況から小さい融資へのコミットメントを重ねて大きな資金を得るまでの道のりを会場にシェアしました。



ピクトリア・キヨスンベ氏

質疑応答では、他のアフリカの国から来ている女性たちが彼女の事例に倣いたいと次々に発言、それに対してキヨスンベ氏は「私たちは皆家族、お互いに学び合いましょう」と優しく応えていました。コンゴの女性は「コンゴではマイクロファイナンスの会社が出来たが、うまくいっていない。夫や子どもにお金が必要になると、女性はビジネスに使うはずのお金をそちらに使ってしまう。」と話し、またナミビアの女性は「ナミビアではキャッシュローンがいたるところにある。30日で30%の利息がつく。顧客の多くは女性で、返せないと資産が全て奪われ、それによる自殺も絶えない。」と自国の苦悩を訴えました。

Women CEO Forum: Opportunities in the Asia/Pacific Region

6人の女性CEOが壇上に上がってディスカッションをしました。その中で「女だからというメリット、デメリット」というテーマがあがり、次のような発言がありました。

「女性と男性はそれほど変わらないと思います。しかし、男性は(特にアジアでは)『very small old boys network』に執着しています。その点女性は、メインストリームの外からの視点を持ち、柔軟に変化やイノベーションを提案できる、それは企業にとっても大きな利点であるでしょう。逆に女性の弱みは、男性のように社内外に強いネットワークを持っていないことだと感じますが、それはこのようなサミットを上手に活用すれば克服できます。」-Yukako Uchinaga (Japan) CEO, Berlitz International

「女性の良さは、loving / caringであり、他者に敏感であり、マルチタスクをこなせるということです。しかし、リスクを取って大きなビジョンを描くこと(Think Big)は女性に、とって課題です。自分の社員を見ていても、傾向として、男性社員は自分のキャリア(昇進)に明確な目標を持っている一方で、女性社員は“自分には能力があると信じている”で止まってしまうのです。実は私自身もそうで、同僚の男性が私より先に昇進したのを目の当たりにして、初めて“ゴールを定める”ことの重要さに気がきました。それ以来、台湾のゼネラルマネージャーになるというゴールを持ち、信じ続け、一步一步前進し、その目標を叶えることが出来ました。」-Sophia Tong (Taiwan), General Manager, IBM Taiwan

【サミットに参加して -感想】

このようなサミットに初めて参加した私にとって、これだけ多くのパワフルな女性たちが集まる場所に身を置けた、という事自体がまず大きな収穫でした。壇上に立った方々が皆「ここに集まっている千人の女性の皆さんの、圧倒するようなエネルギーが素晴らしい」と口を揃えて言っていますが正にその通りで、前出のビクトリアさんをはじめとする前向きで行動力のある他国の方々から、多くの刺激や励ましをもらって帰ることが出来ました。世界中の素晴らしい方々と対話ができたことで、視野が広がると同時に、自信にもつながりました。また、内永氏をはじめ日本人のスピーカーが壇上で堂々と発言している姿は私にとって非常に印象的で、それも大変刺激になりました。



会場となったメリア・ホテル

プログラムの内容に関しては、国によって事情が違うためか、自分の活動に直接『役に立つ』と思えた情報は正直あまり多くありませんでした。

しかしそれ以上に、人との出会いの中で得るものの大きかった三日間でした。私は特にナミビア政府のMinisterを含む5名のナミビア人女性と打ち解け、彼女たちが手がけているエイズ患者を支援するプロジェクトの資料を受け取りました。敬虔なクリスチャンであった彼女たちは私がゴスペル歌手であることを知ると家族のように接してくれ、朝に一緒にお祈りをしたり、朝食を取ったりと楽しいひとときを過ごしました。

今回のサミットはアジアで開かれたということもあり、例年と比べアジア人が多く、欧米人は少なかったようです。ベトナムは初訪問でしたが、サミット内でベトナムが女性進出の進んでいる国だということを初めて知りました。実際、ホテルのスタッフやツアーの日本語ガイドをはじめ女性の活躍が目立ちました。知り合った日系メーカーの方によると、現地の工場では過半数が女性で、ベトナムの女性は男性と比べても勤労なのだそうです。

このサミットは、特に私のように自分の活動を持っている者にとってはとても魅力的なものでした。サミットで得た刺激や人とのコネクションを、そのまま自分のプロジェクトに反映させることができます。一気に世界中とつながることができます。そして何より、女性リーダーたちとの交流によって、女性がこれだけ活躍できるのだというエール・励ましを受け取ることができます。JKSKとしても、今後サミットの開催情報を積極的にアナウンスするなどして、多くの女性にこのサミットに参加するチャンスを与えることが出来ればよいのではないのでしょうか。講師を招いた単なるシンポジウムやセミナーと比べ、多くの活躍する女性たちと直接話合い、関係を築けるこのサミットは、話を聞くことや本を読むことよりよほど説得力を持って女性に活力を与えてくれる、それが私の率直な感想です。

貴重なチャンスを与えてくださったことを、心から御礼申し上げます。私の人生において、このサミットに参加できたことはひとつの転機となりました。今後も、自分自身のプロジェクトに精を出すと同時に、女性が活躍できる社会作りに少しでも貢献できるよう努力したいと思います。ありがとうございました。

2008年6月15日 ジェントル奈々子